

開催地名	徳島県 藍住町
開催日時	令和6年12月6日(金)13:30～15:00
開催場所	藍住東中学校体育館
語り部	石川 善憲(茨城県日立市)
参加者	藍住東中学校1年生 160名(教職員含む)
開催経緯	当町では、近年大規模な災害の被災経験がないため、住民の防災意識が低調となっている。特に、若い世代においては、東日本大震災等の大規模災害をリアルタイムで見聞していないため、さらに防災意識が低い状況となっており、その向上が課題となっている。そこで、語り部の方から実体験に基づいた講話を直接聞くことで、自分事として捉え防災意識の向上を図りたい。
内容	■ はじめに 講演者の石川氏は、東日本大震災を茨城県日立市で被災し、当時避難所となった学校の校長として現場の指揮・監督にあたった。その後、日立市久慈学区のコミュニティ会長として、地域の防災活動やボランティア活動を続けており、震災の経験をもとに防災の重要性を伝えている。 本講演では、震災当日の避難所の様子や、避難所運営を通じて学んだ教訓、そして今後の防災対策について語った。 ■ あの日のこと(避難所の様子) 東日本大震災により、日立市久慈町も津波の被害を受けた。避難所となった体育館は発災当日の11日にはすでに満員となり、座る場所がないほどの混雑だった。体育館に入れなかった人々は、駐車場に停めた車の中で過ごすことを余儀なくされた。 また、情報が入ってこない中で、日立港での車両火災の煙や、PAZ(予防防護措置区域)内にある東海村の原発の状況が住民の不安を高めた。 避難所では、防災無線から断水の情報が伝えられ、教職員や生徒たちが協力して調理室の水を汲み上げ、備蓄を確保した。学校にはプールがなかったため、こうした行動が非常に重要だった。また、停電が発生していたため、明るさが残っているうちにテントを設営するよう生徒たちに指示し、多くの生徒が自発的に手伝いに動いた。 気温が下がる中、対策本部では毛布の不足が問題となったが、リヤカーを使って地域を回り、住民から毛布を集めることに成功した。当初、地震の混乱で協力が得られないのではないかと意見もあったが、結果として多くの毛布が提供された。さらに、地元の建設業者が発電設備を提供し、避難所に電気を供給した。 また、スーパーや大型店舗から食材が届けられ、地域住民が中心となって炊き出しを行い、生徒たちも食事の運搬や配膳を手伝った。避難所内には、小中学校の図書室から持ち込まれた本でミニ図書館が作られ、生徒たちが幼児に読み聞かせを行うなど、避難者の心のケアにも貢献した。生徒たちの明るい笑顔が、被災者に希望を与えた。 ■ 避難所生活から学んだこと 1.非常用ライフラインの備え 震災によりライフラインが停止し、避難所では想定外の問題に直面した。非常電源が備えられていても、いざという時に使えないことがあるため、普段から定期的に点検を行うことが重要である。また、避難所ではトイレの不足が深刻な問題となったため、平常時から仮設トイレの設置計画を立てる必要がある。加えて、冷暖房設備の備えも重要な課題であることが明らかになった。 2.地域との連携 教職員、生徒、地域住民が連携したことで、毛布や電気、食料の確保が円滑に進められた。久慈中学校では「黒潮太鼓」や「久慈中ソーラン」などの伝統行事を通じて、日頃から地域との関わりが深く、この関係性が震災時に大きく役立った。普段から地域のイベントや防災活動に積極的に関わることが、災害時の迅速な対応につながることを実感した。 ■ まとめ ～備えと持続可能なまちづくりへ～ 災害に備えるためには、日常生活の中でできることが多くある。

	そなえ1:地域との連携を普段からとっておく 地域の人々と顔の見える関係を築くことで、災害時にスムーズな協力体制を確立できる。町内会や学校と連携し、防災訓練や地域イベントに積極的に参加することが重要である。 そなえ2:避難時に最優先すべきは自分の命を守ること 避難の際には、自分の命を最優先に考え、適切な行動をとることが必要である。「まだ大丈夫」と思わず、早めの避難を心掛けることが命を守る鍵となる。 そなえ3:自分の命を守るために普段からシミュレーションを行う 避難経路の確認や、災害時の行動を想定した訓練を定期的を実施することで、いざというときに冷静に行動できる。特に、夜間や悪天候時の避難を想定した訓練が重要である。 最後に石川氏は、「地域との連携の大切さ、そして自分の命を守るための事前の準備とシミュレーションが、災害時の生存率を高める」と述べた。本日の講演が、今後の防災活動や出前講座に活かされることを期待すると締めくくった。  
開催地より	避難所生活や運営の苦労などの体験談を聞き、平時からの準備、訓練の大切さを感じた。これを契機に、今後、地域の関係者が連携した防災対策の推進、若年層の防災意識の向上などに努めていきたい。